

国立病院機構 全国保育士協議会の紹介

■「国立病院機構全国保育士協議会」とは？

全国の国立病院機構に勤務する保育士の資質向上を目指す団体で、全国から参加者が集う学習会（年1回）や各支部会（北海道東北、関東信越、東海北陸、近畿、中国四国、九州）等、研鑽の場があります。

また、会員や全国の施設状況の調査、施設間で情報交換をするなど横のつながりを大切にしています。

☆会員の概要

会員在籍病院数：77病院

会員数：273名（R8.3月31日現在）

保育士の配属先は、重症心身障害、筋ジストロフィーなどセーフティーネット分野や、医療的ケアが必要な方の受け入れる通所支援事業、短期入所、小児病棟、児童思春期病棟と多岐にわたります。現場では、保育や療育等の日中活動の充実や発達保障、QOLの拡大に向けて働いています。

保育士は、患者、利用者が一番近い存在であり、生活を支えるために、情報を発信し、共有しあうことで資質を向上させ、専門性を発揮できるよう日々努めています。

■協議会の活動

☆総会及び学習会を、オンラインにて年1回開催しています。

☆全国6支部に分けて、それぞれ年1～2回の支部会研修会を行っています。

- 北海道東北支部
- 関東信越支部
- 東海北陸支部
- 近畿支部
- 中国四国支部
- 九州支部



☆発行物について

会報を年1回発行しています。内容は学習会・講演、支部会の講演・研究発表、他会での発表などです。

当協議会発行書

- 「独立行政法人国立病院機構全国保育士協議会
倫理綱領ガイドブックパンフレット版」
- 「医療現場の保育士と障がい児者の生活支援」
生活書院より、平成22年5月発行（2010）
- 改訂版「医療現場の保育士と障がい児者の生活支援」
生活書院より、平成25年5月発行（2013）
- 三訂版「医療現場の保育士と障がい児者の生活支援」
生活書院より、平成30年5月発行（2018）
- 冊子：「超重症児保育マニュアル」
「反応の捉えにくい患者へのアプローチ法」「別冊 遊び集」

☆運営について

会員による会費で運営されています。

☆ホームページについて

会員間の情報の収集と発信、全国保育士協議会内情報の蓄積のためホームページを運営しております。

国立病院機構の保育士は

患者や利用者に近い立場で、きめ細やかに状態やニーズを把握し、個別支援計画や日中活動支援の充実に繋げることができるスペシャリストとして、日々倫理綱領に基づいた視点から研究課題や達成目標を設定し、研究・実践を行っていくことも必要となります。それらの成果を病院内外へ発表し、保育士の存在や活動をアピールしていくことも大切です。

また、医療チームの中における福祉職として、専門性を発揮することで業務を確立し、多様化するニーズに対しても分野を問わずに対応し、保育士としての基盤を広げます。

当協議会の目的

重症心身障害・神経筋・小児科・児童思春期等の病棟に入院している利用者や患者の発達の促進と福祉の増進をめざし、調査研究を行うとともに、会員保育士の資質の向上並びに地位の向上を図ります。

当協議会の会員

国立病院機構等に勤務する保育士として、当協議会の目的に賛同し入会した人となります。



*入会のお問い合わせは、
当協議会事務局までご連絡下さい。

国立病院機構 柳井医療センター 療育指導室
主任保育士 早崎 典子

〒742-1352 山口県柳井市伊保庄 95

TEL 0820-27-0211 (代表)

FAX 0820-27-1003

E-mail : hayasaki.noriko.tz@mail.hosp.go.jp



国立病院機構
全国保育士協議会



令和 8 年度
国立病院機構
全国保育士協議会入会のご案内

